

# 象山神社

松代藩八代藩主真田幸貫公・佐久間象山先生並びに象山先生門下生の銅像建立

**橋本左内**

福井藩士 佐久間象山の弟子となり、「尊皇経」を著し、「去穢心、振興、立志、勉学、祝文友」と唱える。積極的に西洋学問や技術を取り入れ、藩政改革にも取り組んだ。開国して近代化を進め、強国を後進に植民地支配を防ぐべきと開国論を唱えた。

**勝海舟**

号の「海舟」は象山直筆の「海舟書屋」から採る。象山砲術塾に入門、西洋砲術を学ぶ。幕府の遣米使節を乗せた咸臨丸艦長として太平洋を横断。慶応四年、西郷隆盛と談判、江戸城無血開城を実現。妹の順子は象山の妻。

**佐久間象山先生**

松代藩士 兵学者 藩主真田幸貫の老中海防掛就任に伴い、船門に就き、幕末動乱期「東洋の中の東」という視点をもち、「海防八策」を上中。西洋海軍の認識を完成させた。「東洋の道徳」「西洋の芸術」を唱え、「理」に基づき「国家づくり」を説き、開国論を唱え、幕府に改革を促した。象山門下生、田代文平、小林虎三郎、坂本龍馬、橋本内は、その志を継ぎ、日本近代化の礎を築き、切実に門下生へ伝えた。熱誠の結果であると言えよう。

**吉田松陰**

長州藩士。十九歳で象山塾に入門。欧米遊学を志し、黒船で密航しようとしたが、ペリー艦隊密航事件を起こし、江戸馬場町にて全斬し。その後、萩の野山獄に幽閉された。私塾「松下村塾」で、明治維新で重要な活躍をする多くの若者に思想的影響を与えた。

**高義亭への来訪者**

象山は、吉田松陰の下田路海客で塾房を命ぜられ、屋敷の一角の空間に当たって、たが、境内にある高義亭。その高義亭には幕末の志士、高杉晋作「長州藩士 吉田松陰の弟子、尊王攘夷派の中心人物」が吉田松陰の書を拝参し、中国語大譯「王佐藩士 坂本龍馬と共に薩長同盟の神策に尽力」、久坂玄瑞「長州藩士 吉田松陰の弟子、尊王攘夷派の中心人物」も訪れ討議し、国家の時勢を論じた。



**坂本龍馬**

土佐藩士。象山塾に入門。脱藩して尊皇攘夷運動に参加。のち、龜山社中（後の海援隊）を結成。その運営に奔走。大坂の伴だった「薩長同盟」の成立に尽力するなど徳川幕府崩壊へと導き、明治維新に関与。

**真田幸貫公**

江戸時代の大名。老中。松代藩八代藩主。藩政改革を推進し、養蚕奨励、製鉄業の振興、堤防建設、新田開発など行い、藩政の立て直しを図った。また、産物会所を設置する一方、藩校文武学校開設の基礎を築き、人材登用に力を注いだ。佐久間象山を見いだし、天下に貢献する学者へと導いた。天保十二年、海防掛となり、天保の改革の一翼を担った。

**小林虎三郎**

長州藩士。二十三歳で象山塾に入門。吉田松陰とともに「象山の二流」と呼ばれ、決闘を義務め、長門藩大参事に推され、藩の窮地を救う為、見舞に贈られた「東百俵」を。明日の一万、百万俵となる。と因縁学校設立資金に充て、人材育成にその生利を捧げた。

## 銅像建立に寄せて

松代藩八代藩主真田幸貫公は、若き日の佐久間象山先生の才能を見抜き、抜擢しました。象山先生はその期待に応え「海防八策」を立案し、さらに国の危機を感じ、「東洋道徳・西洋芸術（技術）」という理論を打ち立て、その門下から明治維新の中心となる多くの人材が輩出されました。

私達が長野市篠ノ井でAOKIグループを創業した頃、外商で松代を訪れました。その時立ち寄った象山神社で、象山先生の功績を知りました。象山先生のように立派な方が郷土に生を受けておられたことに、心から感動し、感銘を受けました。その場で兄弟二人、誓いを立てました。「将来、象山先生のような立派な人材を輩出し、応援できる立場になろう。そして、我が国日本をどんどん良い国にしていこう」と。

あれから六十年。地域の皆様の温かいご支援をいただき、強い誓いと志ある所に道が開け、その立場になりました。

今回の銅像建立は、象山先生とその門下生が国の将来を憂い、命がけの活躍を果たしたからこそ今日の日本が有ることを考え、今一度顕彰したいという強い想いがあります。

そしてこの銅像をご覧になったあなたがご自分の強みを活かし、将来象山先生のように立派に社会貢献をしようと誓いを立て、実践し、成功されることを強く願います。この場の誓いは、必ず実現します。

平成三十年 十一月 二十五日



AOKIグループ 創業者 青木 擴憲  
青木 寛久